

日本発ウィーン便り : Ein Spaziergang durch den Schlosspark

何回ウィーンに行っても、必ず一度は訪れるのが、Schloss Schönbrunn（シェーンブルン宮殿）の庭園。



何やら雨になりそうな怪しげな空模様ではありましたが、定点観測を兼ねて、広—い Schlosspark（シュロスパーク : 宮殿の庭園）をのんびり散歩してきました。



まずは、いつもの定点観測ポイント。
春～夏は、噴水が出ています。（冬は凍っています。☺）

いつも同じ風景ではありますが、季節や天気、空の色によっていつも何だか見え方が違います。

いつもお気に入りの眺めです。

Neptunbrunnen（ネプチューンの泉）の横から丘に登ります。
もうそこからは大きな木がたくさんあって、森の中みたいです。

いくつも道があって、よくジョギングしている人がいるのですが、ふと「どこにつながっているのかな？」と、試しに一番大きな道をちょっと散歩してみることにしました。



こんな道です。木々の間からの木漏れ日が良い感じ。
静かな Spaziergang（シュパツィーアガング : 散歩道）です。

だんだん丘を登っていく感じで、なだらかな坂になっています。

時々ジョギング中の人に出くわしますが、その時は、お互い
Grüss Gott!（グリュース・ゴット! : こんにちは）とあいさつします。

ここだけ歩けば、森の散歩とかわりませんが、決定的に違うのは





時々、さりげなく、こんな彫刻が置いてあったり、木の高さとか枝振りとか、何気なく、ちゃんと手入れされていて、「ただの森ではあるまい。」という印象を受けるところでしょうか。☺

さすが、Schlosspark だと思います。☺



Eichhörnchen (アイヒホルンヒェン：リス) とも遭遇。

そうするうちに、見えてきたのは



嬉しいことに、丘の上の Gloriette (グロリエッテ) でした。久しぶりです。



この丘からの眺めはいつだって特別です。
でも喜びは束の間。みるみる空が暗くなってきて、雨がパラパラ降りだしてきたので、もうちょっとゆっくり景色でも眺めたいところでしたが、ちょっと急ぎで丘をおります。



気のせいか、空が暗い日は宮殿の黄色が白っぽく見えるような…。
噴水の裏からの眺めもお気に入りの一つです。



あんまり知られていませんが Schönbrunn には Tiergarten (ティアガルテン: 動物園) があります。1752 年にマリア・テレジアの夫の皇帝フランツ 1 世が作ったのが始まりという、なんと、世界最古の動物園です。ここでもパンダが大人気です。何やらレトロな感じの入り口に騙されそうですが、最先端の施設を備え、世界で最も近代的で理想的な動物園の一つとしてその名を知られているそうです。2010 年には「ヨーロッパ最良の動物園」という評価も受けたとか。檻に関しても、可能な限り、自然の状態に近い環境で動物が見られるように配慮されている、ということなので、日程がゆっくりの時には Tiergarten にも行ってみたいと思います。(やっぱり最低半日は必要でしょう。)



そして、あまりにもありがちなことなんですが…。
(お約束のギャグみたいです。)

丘から降りてくることには、見上げれば、青空。

上から青空の風景が見たかったです。
(でもさすがにもう一度登りなおす気にはならず、
また次の機会に持越しです!) ☺



いつ行っても素敵でのんびりとリラックスできる Schloss Schönbrunn。
時間に余裕があれば Schlosspark ものんびり散歩してみてください。